

後期計画の策定に向けた地域検討会議（第3回）釜石・遠野ブロック 会議録
【釜石・遠野ブロック：釜石市、遠野市、大槌町】

○ 日 時：令和元年8月8日（木）14時00分～16時00分

○ 場 所：釜石地区合同庁舎 4階 大会議室

○ 出席者

① 会議構成員

釜石市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

遠野市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

大槌町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

② 事務局（県教育委員会）

沿岸南部教育事務所（資料「出席者名簿」のとおり）

県教育委員会事務局（資料「出席者名簿」のとおり）

○ 傍聴者：一般7人、報道1人

○ 会議の概要

◆ 議題及び報告事項

1 釜石・遠野ブロックの状況について

【県教委】

- ・ 資料No. 1「釜石・遠野ブロックの状況について」に基づき説明。

2 後期計画策定に向けた意見交換

＜意見交換テーマ＞

各地域における学校・学科の配置について

【県教委】

- ・ まず、ブロックの現状及び課題等、議論の方向性について事務局から説明させていただき、その後、このことについて御意見をいただきたい。

【県教委】

- ・ 資料「後期計画策定に向けた意見交換（釜石・遠野ブロック）」に基づき説明。

【県教委】

- ・ それでは、1点目「現状を踏まえ、今後、釜石・遠野ブロックに必要な学校・学科について」に関する御意見をいただきたい。

【沼田 大槌町教育委員会教育長】

- ・ 資料7頁「ブロック間交流の状況」に、釜石・遠野ブロックにも毎年ある程度流入しているとあるが、その理由について、可能な範囲で教えていただきたい。

【県教委】

- ・ 調査を行った際、理由までは尋ねていないため詳細は把握していないが、特徴ある部活動や学びを求めたものや、両親の転勤によるもの等と捉えている。

【鈴木 遠野高等学校副校長】

- ・ 本校はサッカーの部活動が盛んであり、他ブロックからの入部希望者が、毎年 20～30 名程度入学してくる状況にあり、それがブロック間交流の状況に反映されていると考えられる。

【本田 遠野市長】

- ・ 今後の県内産業の振興や産業人材の育成に関しては、新たに策定された「いわて県民計画」に方針が示されたところであるが、今後の岩手県の高校教育のビジョンや方向性はどのようなものか伺う。

【県教委】

- ・ 県教育委員会では、新たに策定された「いわて県民計画」を踏まえて、2023 年までの 5 年間について「岩手県教育振興計画」を策定したところである。教育振興計画では、社会を創造する人づくりを基本的な目標としており、学校教育の目指す姿については、子どもたちが地域とともにある学校において自ら生き生きと学び、夢を持ち、それぞれの人間形成と自己実現に向けて知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を身に付けることとしている。
- ・ このような県の方針に基づき、後期計画における高校教育の目指す方向性について、資料 1 頁に案をまとめたところである。
- ・ 産業人材の育成は重要な課題と捉えており、県民計画や教育振興計画の方針を踏まえながら、各地域の産業振興の方向性も注視しながら取り組んでいくものである。

【本田 遠野市長】

- ・ 四国に匹敵する広大な県土を有する本県においては、既存概念に基づいた取組をすると地域格差が拡大するのではないかと危惧している。地域の特長を生かし、岩手独自の高校教育を積極的に展開していくことが、地方創生や地域産業を担う人材育成等における高校教育の役割であると考える。

【県教委】

- ・ 御指摘いただいたことについては、後期計画策定の参考とさせていただきます。

【佐々木 (株)栄組専務取締役】

- ・ 7 頁のブロック間交流の資料について、県教育委員会としては、ブロックごとの流出入の差異をできるだけ小さくするような取組をしていく考えなのか、それとも、流出入の差異には捉われず各ブロックの特長を生かした取組を進めていく考えなのか、方向性があれば伺いたい。
- ・ ブロックごとの流出入の差異が生じている原因や背景等について、もう少し踏み込んだ分析を行っているのであれば、情報提供をしていただきたい。

【県教委】

- ・ 現行の高校入試制度では、普通科において学区制を導入しているが、学区内の学びの環境を守りながら学区外の高校へ進学を希望する生徒の機会についても配慮したものである。
- ・ 7 頁のブロック間交流の資料は、実態を把握するためにまとめたものであり、直近 3 年間の高校入試における進学状況を集計し、平均を求めたものである。進学先として学校やブロックを選んだ理由等までは調査していないため、詳細までは把握していない。どのような分析が可能なのかは、引き続き考えていく。
- ・ 各県立学校においては、中学生に選んでもらえるような特色ある学校づくりに取り組んでいるところであり、各地域においては、お示した様なブロック間交流の状況があるということ

を御理解いただき、各地域の学校の魅力化に御協力いただければ幸いです。

【越田 大槌商工会副会長】

- ・ 7頁のブロック間交流について、釜石・遠野ブロックから流出している先として盛岡ブロックや岩手中部ブロックが多いが、それらのブロックのどのような学科へ進学しているのか、データがあれば伺いたい。

【県教委】

- ・ 平成31年度入試に関して、転出している生徒のうち、20数名は私立の高校へ進学していることは把握しているが、学科等の詳細についてはデータを持ち合わせていない。

【小向 遠野市校長会会長】

- ・ 遠野市内の一部の中学校においては、花巻市の公立高校も学区内として受検できるため、例年では花巻北高校や花巻南高校、花巻農業高校等への進学者が多く、私立高校では花巻東高校への進学者が多い。

【菊池 遠野市教育委員会教育長】

- ・ 再編計画の基本的な方針として、県内を9ブロックに分け、各ブロックにおいて学級数調整等を行いながら、県全体のバランスを図ることとなっているが、7頁のブロック間交流に示されているような現状もある中で、敢えてブロックごとの検討・議論を行う理由を伺う。

【県教委】

- ・ 現在、県の行政は4つの広域圏に分けて行われているが、以前は9つの広域生活圏に分かれており、再編計画を策定した際に、生徒の通学可能な範囲を考慮しつつ、一定のエリアに普通科や専門学科の学びの選択肢を残すことを考慮して現在の方針に至っている。

【菊池 遠野市教育委員会教育長】

- ・ 教育再生実行会議の提言においても普通科の改革が求められており、一方で、岩手県教育振興計画では、岩手ならではの教育を行っていくこととしている。このような状況を、後期計画にどのように反映させていくものか伺う。

【県教委】

- ・ 教育再生実行会議の提言を受けて、今後、議論・判断がなされると思われる。現時点では具体的な取組等については示されていないが、普通科に関して大きな変化をもたらすものと考えおり、情報収集に努め、国の動向等について注視し、可能な限り後期計画に反映させていくものである。
- ・ 新たに策定された岩手県教育振興計画では、3つある取組の視点の一つとして「岩手だからこそできる教育、やるべき教育の推進」を掲げており、地域の特長を生かしつつ、地域社会との連携・協働により、各地域の高校が抱える教育課題の解決に向けて、より良い教育環境を整えていく所存である。

【佐々木 (株)栄組専務取締役】

- ・ 後期計画を策定していく上で、中学生等の声を反映させる仕組みがあるものか伺う。
- ・ 弊社にインターンシップに来た他地区出身の遠野高校生に接する機会があり、彼らは遠野高校に入学して初めて、遠野高校や遠野市、地元企業の魅力を知り、将来は遠野市に就職したい

と考える生徒もいた。おそらく他の地区にも、地域の高校や地域社会等の魅力に気付いたという高校生がいると考えられるので、このような高校生の声を評価したり、高校の魅力化に向けた地域社会の取組についても評価して、後期計画の策定に生かしていくことができれば、より良い後期計画になるものとする。

【県教委】

- ・ 生徒の希望については、平成30年に、県内の中学校3年生約11,000名を対象にしてアンケート調査を実施したところであり、希望する学科等の配置や学校規模、通学時間等の集計結果について、後期計画の策定に参考としていくものである。
- ・ 多くの高校でインターンシップや企業見学等により地域社会を知る取組が行われており、そのような取組を継続していくことにより、地域に愛着や誇りを感じる生徒が増え、地域に定着する可能性が高まっていくものとする。ぜひ、今後も御協力をお願いしたい。

【佐藤 釜石市教育委員会教育長】

- ・ 現在、釜石祥雲支援学校高等部の生徒は、釜石高校と同一の校舎で学んでおり、釜石高校はインクルーシブ教育に取り組んでいる。このような取組は、特色ある学校づくりの一例として意義深いものとする。
- ・ 後期計画においては、特別支援学校の再編等、教育環境の整備を検討しているものか伺いたい。

【県教委】

- ・ 再編計画は県立高校を対象としたものであるため、特別支援学校は対象としていないが、高校と特別支援学校の併設は、特色ある学校づくりにおける一つの視点であり、選択肢の一つとして考えられることと捉えている。また、支援を要する生徒や多様な生徒への対応については、学校や学科の配置について検討する際には、配慮をするものである。

【高木 大槌町PTA連合会】

- ・ 地方創生の観点から、後期計画策定においては「1市町村につき1校以上の高等学校を設置する」ように、特段の配慮をお願いしたい。それを大前提にした上で、地域の学校を存続させるための方策や、ブロック外や県外から生徒を受け入れる方策について、前向きな議論を行ってほしい。
- ・ 工業系専門高校の学科改編等や入学者数の減少に伴い、地域産業を支える技術者の育成が難しくなり、地域産業の衰退に繋がってしまうのではないかと危惧している。1つのブロックで専門分野の学びを残していくことが難しいのであれば、せめて隣接する2つのブロックの中には学びが残るように、専門高校や専門学科を配置してほしい。学科改編により専門学科をまとめていくことによって、学びの深さが損なわれ、専門分野が曖昧になっているのではないかと懸念している。
- ・ 岩手には、県立産業技術短期大学校という素晴らしい技術者養成学校がある。普通科高校から同校に進学し、技術者になるという進路選択もあることを、中学生に対して十分に周知してほしい。

【本田 遠野市長】

- ・ 子どもたちが、自分の希望や夢を叶えられるという明るい見通しを持てる教育環境を構築することを、後期計画にしっかりと位置付けられなければならないものとする。
- ・ 県立高校の編制について、ブロック内で調整するという視点で議論が行われているが、交通

インフラやICT等の情報技術の充実に伴い、様々な垣根を越えていけるようになっているため、長期的な戦略に基づき、ブロックに捉われない広い視野で議論を進めるべきと考える。

- ・ 国が定める「まち・ひと・しごと創生基本方針 2019」の中でも、高等学校が市町村や産業界と協働して、地域課題の解決等を通じた探究的な学びを実現する取組を推進し、将来、地域において地域ならではの新しい価値を創造する人材や、専門的な知識・技術等を身に付けた地域や産業界に求められる人材等の育成を強化すると明確に示している。
- ・ このために地域の高校の存続は欠かせないことであり、「産・学・官・金・労・言」*の連携を進めながら岩手ならではの教育を実践するための新たな仕組みづくりや環境整備をしなければならぬものとする。国の動向を踏まえた議論が行われることを望む。
(※産＝民間企業等の産業界、学＝高等学校・大学等、官＝行政機関、金＝地方銀行等の金融機関、労＝労働組合、言＝マスコミュニケーション)
- ・ 県内 33 市町村長による「高校再編を考える市町村長懇談会」においても、地域の高校の価値等が認められているところであり、地域の高校の今後のあり方について考えているところである。後期計画の策定に当たっては、このような動向も十分に考慮していただきたい。

【多田 遠野市PTA連合会副会長】

- ・ 高校を取り巻く厳しい現実について、さらに危機感を強めたところであり、高校再編についてはやむを得ない面があることも事実であろうと認識している。
- ・ 遠野緑峰高校のポップ和紙の研究成果は全国的にも高い評価を得ており、地域の活性化にも貢献している。現在の遠野緑峰高校の良い研究環境を守るためにも、遠野高校と遠野緑峰高校との統合には反対である。
- ・ 遠野市と歴史的、地理的、人口規模等の状況で共通点が多い二戸市については、福岡高校と福岡工業高校の二校について存続の計画が示されていることを鑑みると、遠野高校と遠野緑峰高校も存続できるものとする。

【沼田 大槌町教育委員会教育長】

- ・ 生徒にとって魅力ある学びを提供するために、学校と地域、行政、地元企業が連携・協働して、体験活動を伴った探究的な学びを行う環境を整備することが必要であると考えている。
- ・ 地域ぐるみで大槌高校を支援しているが、そのような状況を大槌高校の生徒たちも汲み取って、魅力ある学校をつくるために主体的に活動する生徒が増加していると聞いている。後期計画の策定に当たっては、このように地域に根差した小規模校だからこそ行える教育もあるという点を十分に考慮していただきたい。

【小向 遠野市校長会会長】

- ・ 地域の産業を担う人材育成の観点から、遠野緑峰高校と釜石商工高校の存続は必要であり、また、地域と密接な関係を築き、将来的に地域社会を支える人材育成を行っている大槌高校の存続も必要である。3校の存続をぜひお願いしたい。

【菅原 花巻農業協同組合理事】

- ・ 先日、日本の食料自給率がカロリーベースで37%であるという新聞報道があった。岩手県と同自給率はかろうじて100%を超えているが、全国的には危機的な状況であり、改善に向けては、農業の6次産業化を進めていかなければならないとされている。
- ・ 遠野緑峰高校は、農業系学科と商業系学科を併置している貴重な高校であり、今の農業界のニーズに合致している。岩手県の基幹産業である農業を将来的に支えていく人材を育成するためにも、遠野緑峰高校の存在は欠かせないものとする。

【佐々木 ㈱栄組専務取締役】

- ・ 普通科や商業科等の既存の学科構成は、今の時代やこれからの時代に適したものか、検証すべきではないか。既存の学科の枠組みをドラスチックに見直し、地域産業の特長を生かした新しい学科を設置できれば、産業界の変革に対応した人材育成にも繋がり、他県から生徒を呼び込むことにも繋がるものとする。

【菊池 遠野市教育委員会教育長】

- ・ 教育の質の保証と機会の保障という観点で、より良い教育環境をつくっていくことを考えるとき、教員定数の確保は欠かせない要素である。教員定数を確保した上で、さらに、高校と地域行政、地元企業の連携・協働によって、より良質な魅力ある高校教育を実践することが可能になるものとする。
- ・ 現状では、高校再編や高校教育のあり方等に関して、県内を9ブロックに分けて個別の議論を行っているが、ブロックごとに考えた方が良く、全県で考えるべきこと、近接するブロックで考えた方が良く、それぞれあるように思われる。より良い教育環境をつくるために、広い視野と柔軟な視点で検討を行っていただきたい。

【県教委】

- ・ それでは、次に2点目「中学校卒業生数が後期計画終了後もさらに減少していくことが見込まれる中、可能な限り現在の学校を維持する観点から、学級数の調整で対応する考え方と、学校の活力向上の観点から学校統合で対応する考え方等について」に関する御意見をいただきたい。

【野田 釜石市長】

- ・ 現在釜石市は、釜石高校の生徒に対するキャリア教育の一環として、「釜石コンパス」事業を釜石高校と連携して展開している。好評を博しており、中学生の時にこういう経験を積んでいけば、高校に進学する意味や学びたい内容をよく考えたり、地域の仕事や企業について興味を持って理解するように努めたい、という声もいただいている。このように、行政が高校と密に連携を取っていけば、魅力ある学びを提供することができるものとする。
- ・ 少子化により学校経営が困難になるのであれば、学校統合や学級減はやむを得ないことと考えるが、子どもたちが行きたいと思う学校、ここで学びたいという学校をつくっていくことが重要であるとする。子どもたちにとってより良い学校のあり方や、新しい時代に対応していくための教育のあり方を柔軟に考えることが必要であるとする。
- ・ 釜石はものづくりの街であり、ものづくり人材の育成のために、釜石商工高校に専攻科を設置していただきたい。

【平野 大槌町長】

- ・ 学校統合に対する地域住民の抵抗感拭えないものがあり、地域から学校がなくなることに対する住民の不安は大きい。少子化や人口減少社会において、県内各地域における高校教育の将来像に対して、県教育委員会としてのビジョンを示していただきたい。
- ・ 高校に活気があれば、地域にも活気が出ることを実感している。四国に相当する広大な県土を持つ本県で、人口減少が加速していく状況においては、島根県が行っているような留学制度を取り入れたり、兵庫県にある防災関連の学科を設置するといった高校の魅力化に向けた取組を積極的に行う必要があるとする。大槌町としては、大槌高校の魅力化に向けて、県と一緒に取組を進めていきたいと考えているところである。

【小笠原 (公財)釜石・大槌地域産業育成センター専務理事】

- ・ 当センターでは、釜石高校が行っている海洋再生エネルギーに関するSSH事業への協力や、釜石商工高校生徒への地元企業の紹介等のキャリア教育支援を行っている。高校生からは高評価をいただいております、今後も継続していきたいと考えています。
- ・ 地元の産業界は、地域の高校が特色ある学びを展開するために、高校への支援を行う用意があるので、ぜひ活用していただきたい。

【高木 大槌町PTA連合会会長】

- ・ 大槌町の工業界にも高校の力になりたいという声が多くある。ぜひ、民間の力を活用していただきたい。

【本田 遠野市長】

- ・ 高校再編や高校教育のあり方を議論する上では、ブロック内という限定的な範囲で考えるのではなく、もっと広域での議論をしていかなければ新たな展開は望めないものと感じている。県教育委員会にあつては、次回の地域検討会議にて、少子化が進行する本県教育のグランドデザインを明示していただき、多くの方々から理解を得られる後期計画案を提示していただきたい。

【県教委】

- ・ ただ今の御意見や本日頂戴した御意見を十分に参考にして、十分な検討を行い、後期計画の策定に取り組んでいくものである。

【県教委】

- ・ 本日の会議では、地域における学校、学科等について具体的な御提言・御意見を伺い、地域の高校に対する皆様の深く熱い思いを改めて感じたところである。
- ・ 新たな県立高等学校再編計画は、教育の質の保証と教育の機会の保障という大きな2つの柱を掲げて10年間の計画でお示ししているところであるが、後期計画の策定においても生徒を第一優先として考えていくものである。
- ・ 議論の根拠となるように、また、現状を正確にお伝えしたいという考えから、様々なデータを提示しているが、これまでも説明しているとおおり、数値のみの判断で高校再編を進めていくものではないことを改めて御承知いただきたい。
- ・ 現在、釜石・遠野ブロックに設置されている全日制高校は5校あるが、令和15年には当ブロック内の中学校卒業生数が約400名、つまり、約10学級程度になるという予測であり、この人数を現状の5校で割り振る場合、教育の質が保証されるのかという懸念も生じる。
- ・ 後期計画は令和3年度から令和7年度までの5年間であるが、人口減少はその後にも急激に進むことから、その先を見据えた計画を策定することとしている。
- ・ 本日の会議では新しい視点も含めて様々御意見を頂戴したことに感謝申し上げる。

後期計画の策定に向けた地域検討会議(第3回)【釜石・遠野ブロック】

出席者名簿

No	市町村等	氏名	所属・役職等	備考
1	釜石市	野田 武 則	釜石市長	
2		小笠原 順 一	(公財)釜石・大槌地域産業育成センター 専務理事	
3		久保 知 久	釜石地方森林組合 代表理事組合長	
4		佐藤 功	釜石市教育委員会 教育長	
5	遠野市	本田 敏 秋	遠野市長	
6		菅原 一 雄	花巻農業協同組合 理事	
7		佐々木 栄 洋	㈱栄組 専務取締役	
8		多田 宜 史	遠野市PTA連合会 副会長	代理
9		菊池 広 親	遠野市教育委員会 教育長	
10	大槌町	平野 公 三	大槌町長	
11		越田 征 男	大槌商工会 副会長	代理
12		高木 正 基	大槌町PTA連合会 会長	
13		沼田 義 孝	大槌町教育委員会 教育長	
14	地区中学校長代表	小向 敏 夫	遠野市校長会 会長 (遠野市立遠野中学校長)	
15		川崎 一 弘	釜石地区小中学校長会 会長 (釜石市立釜石中学校長)	

【オブザーバー】

No		氏名	所属・役職等	備考
16	県議会議員	小野 共	岩手県議会議員	
17		工藤 勝 子	岩手県議会議員	
18		岩崎 友 一	岩手県議会議員	
19	県立高等学校	鈴木 広 樹	釜石高等学校長	
20		村上 則 文	釜石商工高等学校長	
21		鈴木 徹	遠野高等学校 副校長	
22		千葉 久	遠野緑峰高等学校 副校長	
23		瀬戸 和 彦	大槌高等学校長	

【県教育委員会】

No		氏名	所属・役職等	備考
24	県教育委員会 事務局等	加藤 暢 之	沿岸南部教育事務所長	
25		梅津 久仁宏	教育次長	
26		木村 克 則	学校調整課首席指導主事兼総括課長	
27		里館 文 彦	学校教育課首席指導主事兼高校教育課長	
28		藤澤 良 志	学校調整課特命参事兼高校改革課長	
29		谷地 信 治	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
30		小野寺 一 浩	学校調整課高校改革担当指導主事	
31		女鹿 光 介	学校調整課高校改革担当主査	